



日本人間工学会東海支部 2012 年研究大会

大会長 横森 求 (名城大学教授)

日本人間工学会東海支部 2012 年度研究大会を名城大学で開催させていただくにあたり、ご挨拶を申し上げます。

第一回(2000 年 10 月 21 日)の東海支部研究大会は福田康明先生(名城大学教授)大会長の下で、会場を名城大学で開催されました。名城大学での開催は 12 年ぶりになります。地下鉄駅からの長い上り坂は変わりませんが、講演会場も新講義棟に移りましたので、運営環境はだいぶ改善されたとご期待ください。

1964 年に日本人間工学会が創設され、半世紀が過ぎ、「人間工学」は変化する日常生活、産業活動などの諸問題を解決するために重要な役割を担ってきました。社会の変化とともに、発生する問題も多様に变化し、新たな分析・解析方法そして解決策が要求され、具体策が実施されてきました。それら具体策にはそのときは合格しても、その内容・基準は時代とともに変化していきますのでゴールはありません。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災および東京電力福島第一原発事故以降、いろいろな分野において事前事後の災害対策について議論がされています。また、日本人間工学会会誌(Vol.48, No.3, 2012)では「震災から人間工学が学ぶこと・すべきこと」の特集が組まれました。昨年 3 月 11 日以降、全ての分野において、特に人間工学分野に関わる者には多くの課題が託されました。

今大会では、研究発表 39 編が予定され、若手はじめ多くの研究者から日頃の成果を開示していただけます。また、特別講演では、アイシン精機株式会社 デザイン部 部長 岡 雄一郎氏から「人を中心としたデザイン」のテーマで、実務経験に基づいたお話をいただけます。また、東海支部学生支援特別企画として定着しました「企業との架け橋」を榎原毅先生、松岡敏生先生、白井克佳様を中心とした先生方の企画で実施します。さらに、若い技術者・研究者育成を意図した高田賞の授与、会員相互の親睦を深める懇親会も企画されています。この研究大会が東海地区の人間工学の発展と地域発展に大きく貢献することを期待します。

おわりに、準備から当日運営まで大変お世話をいただきました福田康明委員長はじめ実行委員会の方々には厚くお礼を申し上げます。

